

単学級におけるよりよい学級集団の育成

ーリレーシヨンの確立とルールの確立を通してー

南城市立百名小学校教諭 三 浦 リ カ

内容要約

単学級におけるよりよい学級集団の育成のためには、学級内に「リレーシヨンの確立」と「ルールの確立」を図ることが望ましい。

そこで、学校生活において、児童理解や学級の実態把握を通し、意図的・計画的に構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを取り入れた。その結果、児童がリレーシヨンと対人関係に関するルールを身に付けることができ、一人一人に居場所がある理想的な学級へと変化した。

【キーワード】単学級 よりよい学級集団 リレーシヨン ルール 構成的グループエンカウンター
ソーシャルスキルトレーニング

目 次

I	テーマ設定の理由	41
II	研究内容	42
1	「よりよい学級集団」の視点	42
2	リレーシヨンの確立	42
3	ルールの確立	44
III	授業実践	45
1	主題名	45
2	主題について	45
3	本時の指導計画	46
4	授業の分析と考察	48
IV	研究全体の考察	49
1	児童間の温かな交流が図れたか	49
2	対人関係に関するルールが身に付いたか	49
3	「個々の居場所が学級にある」について	50
V	研究の成果と今後の課題	50
1	研究の成果	50
2	今後の課題	50

＜小学校 教育相談＞

単学級におけるよりよい学級集団の育成

－リレーションの確立とルールの確立を通して－

南城市立百名小学校教諭 三浦リカ

I テーマ設定の理由

子どもたちの人間関係能力や社会性を身に付けるには、家庭や地域社会において集団体験や人間関係体験を行うことが理想である。しかし核家族化・少子化・地域教育力の低下、社会環境の変化により、それらを身につける場や機会も激減している。このような状況から子どもたちは、対人関係をうまく形成・維持できない、またストレスを適切に処理できない傾向が見られ、それらは対人関係を避けること、逆に攻撃的になってしまう等の行動や態度として表面化している。その結果、子どもたちが集まり、ともに活動し、生活する学校内において、対人関係に起因したさまざまなトラブルが発生している。このような状況を踏まえ、平成17年度、本県学力向上主要施策「夢、にぬふぁ星プラン」の「コミュニケーションの能力の育成を図る」では、人間関係づくりの充実、教育相談の充実を求めている。

本学級は単学級であり、これまでの3年間学級編制がなく進級し、児童は安定した状態で新学期を迎え表面的には、お互いの性格を知り尽くし仲良く活動しているように思われる。しかし、実際は小集団も出来上がり、いわゆる仲良しグループにおいては、楽しく活動したり協力しているが、グループ外の児童に対しては意識が向かない。また、級友に対する固定概念も出来上がっているため、級友に認められている児童は、学級の中心的な存在となり、周りはその言動に従う傾向がある。また、認められていない児童は、学級に居場所がなく、みんなの役にたっていないと感じ集団活動に積極的に参加できない。単学級は、新たな級友との出会いや友達づくりをする体験に乏しく、級友についてのよさを発見し、認めてあげようとする機会が少ないため、交友関係に広がりがなく人間関係が希薄になりがちである。そのため、帰りの会で友達の「よいことさがし」を取り入れ、皆に褒め認められる場面を設定したが、特定の児童に話題が集中し、全員をうまく取り上げることができなかった。また、学級でトラブルが生じたとき「こうしなさい。」「こうしたらいけない。」と言葉だけの説明となり、児童が対人関係のスキルを十分身に付けることはできず、単学級におけるよりよい学級集団の育成にはいたらなかった。

単学級においては、クラス編制がなく人的環境を変えることは困難なため、児童一人一人の級友に対する見方や考え方を変容させ、人間関係を再構築させる必要がある。そのために、単学級におけるよりよい学級集団を、①児童間の温かな交流が盛んである。②対人関係に関するルールが身に付いている。③個々の居場所が学級にある。と捉え、研究を進めたい。よりよい学級集団を育てる条件に「リレーションの確立」と「ルールの確立」があげられる。「リレーション」とは互いに構えのない、ふれあいのある本音の感情交流ができる状態であり、「ルール」とは、対人関係に関するマナーや集団生活をする際のマナーである。それらを踏まえ、「リレーションの確立」を図るために、自己理解・他者理解・信頼体験などをねらう構成的グループエンカウンターを、また「ルールの確立」を図るために、人間関係に関する知識や具体的な技能を身につけるソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、意図的・計画的に実践することが必要である。

そこで、単学級におけるよりよい学級集団の育成を図るために、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、学級内に「リレーション」と「ルール」の確立を図りたいと考え、本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで、「リレーション」と「ルール」が確立され、単学級におけるよりよい学級集団の育成が図れるであろう。

Ⅱ 研究内容

1 「よりよい学級集団」の視点

(1) 「よりよい学級集団」とは

児童は、学校生活の大半を学級で過ごしている。学級とは、「学習集団」と「生活集団」の2つの側面を持ち合わせ、教科教育や道徳教育、特別活動を通し、学習に関する知識や人間関係に関する技能を身に付けさせる場である。学級集団を育てるためには、ふれあいのある人間関係づくりとルールの定着を図ることが重要となり、それらが育成されることで、学級内の人間関係の促進と学習の効果を高めることができる。

また、単学級における「よりよい学級集団」づくりの視点として、児童間の温かな交流が盛んであることがあげられる。それをより深い関係にするためには、児童一人一人に、対人関係に関するルールを身に付けさせることが必要となり、そのためのスキルを高めることで、個々の居場所を学級に見出すことができるのである。

(2) リレーションとルールからみた学級の状態

リレーションとルールの2つの視点で学級の状態を把握することができる。

一つは、学級という集団の中に、子どもたちが共に活動するためのルールがどれくらい定着しているか。

もう一つは、どれくらい親和的で協力的な人間関係が成立しているかである。

ルールとリレーションが高まることで、理想的な学級が形成される。図1に学級の4タイプを示す。

	高	ルール Y軸	
		②元気がない学級	①理想的な学級
		教師の指示に静かに従う学級である。子どもたちは元気がないというよりも、オドオドしている。靴かくしや掲示物へのいたづらなど、陰険ないたづらが生じる。	教師と子どもたちの信頼関係の基で、子どもたちが和気あいあいと生活している学級である。一人一人に居場所があり、個性を發揮できる場がある。そして、それを認め励ましてくれる教師と子どもたちがいる。
低		④バラバラな学級	リレーション X軸 高
		学級崩壊の状態に陥った学級である。子どもたちの欲求不満が爆発すると教師に反抗する、好き勝手にするという手のつけられない状態になる。「学校や先生が嫌だから学校へ行きたくない」という子どもが増える。	③うるさい学級
			私語や勝手な行動が多く、まとまりのない印象を受ける学級である。子ども一人一人の活動意欲は高いが、学級にルールが定着していないため、トラブルが多い。悪ふざけの延長のようないじめや小グループの対立などが目立つ。
	低		

図1 学級の4タイプ

2 リレーションの確立

(1) リレーションとは

リレーションとは、互いに構えのないふれあいのある本音の感情交流をさせ、心の絆をつくることである。児童が、「自分の思っていることを素直に言える」「何を言っても自分を受け止めてもらえる」なかで相互信頼感情を育てることができる。学級内の対人関係の中にリレーションがあることで、人は他の人に気がねすることなく自分らしくふるまうことができる。また、他の人と本音による率直な付き合いができるようになる。そのようななかではじめて、児童に多くの「気づき」が生まれ、その「気づき」は、児童が新たな視点で自分から行動しようとするきっかけにもなる。また、構成的グループエンカウンターのエクササイズを活用することで、短期間にリレーションを高めることができる。

(2) 構成的グループエンカウンター

① 構成的グループエンカウンターとは

リーダーが課したエクササイズを実施し、集団で振り返ることを通して、自分や友だちの新しい面を発見し、集団の人間関係を改善したり、自己を変容させたりしようとするもの。枠を与えることにより④自分を表現しやすい⑤心的外傷を予防しやすい⑥所定の時間内に完結しやすいという特徴を持つ。学級担任が行う、集団を対象としたカウンセリングの技として、広く普及している。

② 単学級における構成的グループエンカウンター実施の目的

単学級では、長い間構成メンバーが同じであることから、児童間において人間関係の固定化や序列化、柔軟な社会性や人間関係能力が育ちにくい。そのため教師が積極的に児童の人間関係づくりの指導と援助をする必要があり、その手だてとして、構成的グループエンカウターの活用が望ましい。単学級での構成的グループエンカウンター実施は、級友の知らなかった一面を知ったり、級友のよさに気付くなど、通常の学校生活では得にくい視点からの気付きをもたらす。このことで固定化した人間関係を打開し、新しい交友関係を築くことができる。

③ リレーションを高めるためのエクササイズ

リレーションを高めるには、「自己理解」「他者理解」「信頼体験」をねらいとする、構成的グループエンカウターのエクササイズを取り入れることが有効である。

ア 「自己理解」

「ほめあげ大会」「あなたの〇〇が好きです」「してあげたこと、してもらったこと」「ブレーンストーミング」

イ 「他者理解」

「ジャンケン列車」「何でもバスケット」「四つの窓」「ありがとうカード」「がんばり賞をあげよつと」「サイコロトーク」「他者紹介」「探検ゲーム」「印象ゲーム」

ウ 「信頼体験」

「ご指名です」「聖徳太子ゲーム」「目かくしジョギング」「団結くずし」「ブラインドワーク」

④ 朝の会や帰りの会を活用して、リレーションを高める工夫

朝の会や帰りの会の10分程度を利用して、ショートエクササイズを行うことで、児童の心の変化や人間関係の変化に対応した援助を行うことができる。

ア 朝の会

朝の会では、準備や振り返りに時間がかからず、すぐ授業に切り替えられるものに留意する。スピーチや「そうですね」「サイコロトーク」「スゴロクトーク」、ゲーム感覚で楽しめる「タイムトラベル」等をショートエクササイズで取り入れることで他者理解や児童間の交流が図れる。

イ 帰りの会

帰りの会では、一日の振り返りをさせる場面で「3つの発見」「いいとこさがし」を行うことで互いに認め合い、自他理解が図れる。また、帰る前に、「ジャンケンゲーム」「心と心の握手」を取り入れることでスリルを味わったり、そこから勝った負けたの話題から友達との輪を広げることができる。表1にショートエクササイズを示す。

表1 ショートエクササイズ

題名	ねらい	内容
いいとこさがし	〇互いに認め合い、信頼関係を築く。	●グループのメンバーについて、相手のいいところだと思った「事実」と、自分の感想を書く。
心と心の握手	〇他者への温かな関心を高める。	●出会った人と手を握り、1～3までの数を思い浮かべ、二人同時にその数だけ手を握る。相手と数が一致するまで繰り返す。
そうですね	〇受容される体験をすることで、心地よさと心の安定に気づく。	●話し手は「あれは・・・そうですね」等と思いつく言葉を入れて繰り返し、聞き手は「そうですね」を繰り返す。役割交代。
タイムトラベル	〇自分の存在を確かめ、クラスへの所属意識をもたせる。	●一人が廊下に出る。全員が静止。教室に入り誰がどこにいるか記憶。再び廊下に出て一人が隠れ、隠れた友だちをあてる。
スゴロクトーク	〇相互理解や人前で話す訓練、傾聴訓練の効果が期待できる。	●班ごとに席を寄せ、真ん中にスゴロクを置く。サイコロを振り、止まったマスに書かれているテーマについて話す。
仲間さがし	〇学級に居場所のない児童の気持ちを理解する。	●背中に図形を書いたカードをはる。話さずに同じ図形同士が集まる。

3 ルールの確立

(1) ルールの確立とは

すべての児童が学級においてより快適に生活するためには、最低限の約束事が必要である。学級において必要なルールは、対人関係におけるマナーや集団生活のマナーである。自我の発達が未熟な小学生には、それらをルールとして定め、身につけさせることが必要である。

対人関係のマナーとは、人間関係を形成・維持していくためのルールである。人間関係を形成するには、身振りや手振り、表情や発言の仕方、相手との距離（心理的なものも含めて）の取り方、関わり方を身に付けておくことが大切である。人間関係を維持するには、友達の遊びに加えてもらうルールや仲直りをするには何と言えればいいのか。また、他の人が何を考え、何を感じているのか理解することが重要となる。

集団生活のマナーとは、人権を侵害しないこと、聞く・話す時の態度、授業など集団で活動するための心構えである。これらを児童が守りやすいルールとして確立しておくこと、人と関わるときに「聞いてもらえる」という安心感をもつことができ、児童間の交流を促進し、より対人関係を広め深めることができる。対人関係をスムーズに進めるための知識と技能の両面から学ぶには、ソーシャルスキルトレーニングが効果的である。

(2) ソーシャルスキルトレーニング

① ソーシャルスキルトレーニングとは

挨拶や話の聞き方、他人への要求の仕方、対立の解決方法等、集団の中で円滑に対人関係を処理していくための方法を、行動様式として学ばせるもの。学級内の人間関係を円滑にし、トラブルを処理できるかどうかは、受け答えや態度が一定の行動様式になっているかどうか、つまり行動が「スキル」として身に付いているかどうかにかかるところが大きい。社会体験の乏しい現代の児童にとって、行動様式を学級の中でトレーニングすることの意義は大きい。

② 対人関係を育てるためのスキル

対人関係を円滑に進めるための基本となるスキルに、友情形成スキル（仲間との交友的な関係を働きかけ、それを維持する）、主張性スキル（相手を傷つけないようにしつつ、自分の要求や権利をはっきりと主張したり、相手の要求を上手に断ったりする）、社会的問題解決スキル（対人的な場面で遭遇する相手との利害の対立や葛藤を「問題」として気づき、それを解消する）等があげられる。単学級においては、友情形成スキルを取り入れることで学級内の人間関係に広がりがある。

③ 単学級におけるソーシャルスキル

交友関係に広がりがなく、人間関係が希薄になりがちである単学級においては、友情形成スキルを身につける必要がある。友情形成スキルに、「仲間の誘い方」「仲間の入り方」「あたたかい言葉かけ」「気持ちをわかって働きかける」があり、表2に4つのスキルを表す。

表2 友情形成スキル

題 材 名	ね ら い	獲得目標とするスキル
仲間の誘い方 「いっしょに遊ぼうゲーム」	○友だちを誘うためのスキルを練習し、誰にでも声をかけられるような練習を行う。	①近づく。②きちんと見る。③聞こえる声で言う。 ④笑顔で言う。⑤「いっしょに遊ぼう」と言う。
仲間の入り方 「いーれて」	○一人一人の仲間に入るスキルを高める。 学級で取り組むことで、友だちが仲間に入りたがっている気持ちを理解させる。	①近づく。②きちんと見る。 ③聞こえる声で言う。④笑顔で言う。 ⑤「いーれて」などの言葉をかける。
あたたかい言葉かけ 「あたたかい言葉シャワー」	○あたたかい言葉とは何かを知り、あたたかい言葉を、かけられる体験を通して、そのよさを味わう。	①相手に近づく。②きちんと見る。③聞こえる声で言う。 ④笑顔で言う。⑤あたたかい言葉が「相手の様子+感情語」から成ることがわかる。
気持ちをわかって働きかける 「友だちふやそう」	○自分の良いところを把握し伝えることに慣れ、自分を知ってもらう心地よさと、相手を知ることでわく親近感を味わう。	①自分のいいところを探す。②紹介したいことを選ぶ。 ③視線を合わせる。④聞こえる声で話す。⑤表情豊かに。

(3) 構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングの活用メリット

児童間の温かな交流を促進し、リレーションを高めるために構成的グループエンカウンターと、対人関係に関するスキルを高めるためにソーシャルスキルトレーニングを組み入れることで以下のような利点がある。

① リレーションの形成

親和的な雰囲気の中で、ソーシャルスキルトレーニングを実施すると、リレーション形成がより高まる。

② スキルの般化を促進

構成的グループエンカウンターを行うことで、級友との接し方や級友の感情を読み取ったりする体験を通して、日常で使っていくためのスキルを強化・促進することができる。

③ ソーシャルスキルの使用感覚の育成

構成的グループエンカウンターを行うことで、人とうまく折り合うことだけでなく、自分の感情と折り合いをつけたり、自分の人権を守ったりしながら、スキルを使用するときの感覚を得る。

Ⅲ 授業実践

1 主題名 よりよい学級集団の育成

2 主題について

(1) 主題観（省略）

(2) 児童観

本学級の男子は、明るく元気があり休み時間は運動場に出て活発に動き回っている。女子は、比較的小おとなしく当番活動や係活動、与えられた課題は最後まできちんとやり遂げる。反面、小集団においては固定化しつつあり、仲のよいグループにおいては、楽しく協力し合う姿が見受けられるが、グループに属さない児童に対しては無関心であり、人間関係が希薄になっている。また、3年間同じ構成メンバーであることから序列化し、集団から支持された児童の発言に従う傾向があり、逆に支持されない児童は、肩身の狭い思いをしている。

10月に実施した心理検査（Q-U アンケート）の学校生活満足度尺度の結果によると、学級に満足感の持てない児童が33%（全国59%）いる。特に男子11名中6名がそう感じている。また、『友達ふやそうアンケート』から、90%の児童がもっと友達を増やしたいと思っている。しかし、「仲間に入れてもらえない。」「好きな人から声がかからない。」等、自分から周りに働きかけをせず、受け身の状態であるため、人間関係づくりに関する知識やマナーが十分身に付いていないという実態が明らかになった。

そこで、お互いの良さを認め合う体験や、周りの人との関わり方を身につけることの支援を行うことが必要であると考えた。

(3) 指導観

児童の実態を踏まえ、学級全体を対象に構成的グループエンカウンターで「イヤな言葉とうれしい言葉」「いいことさがし」「サイコロトーク」「聖徳太子ゲーム」等を行い、「自己理解」・「他者理解」・「信頼体験」を深め、「リレーションの確立」を図りたい。

また、ソーシャルスキルトレーニングで「気持ちをわかって働きかけるスキル」「仲間の入り方スキル」「あたたかい言葉かけスキル」を行い、人間関係に関する知識や技能、対人関係の基本的なマナーを身に付けさせることで「ルールの確立」を図りたい。

さらに、朝の会や帰りの会を利用し、ショートエクササイズを取り入れることで、多くの児童と関わらせるような工夫をしたい。

(4) 活動計画

	時 間	題名・エクササイズ	○ ねらい ▲エンカウンター ★ ソーシャルスキル
1	学活 45分	「友だちふやそう」 (ソーシャルスキル)	○自分を知ってもらう気持ちよさと、相手を知ることでわく親近感を味わう。 ▲自己理解を図る。 ★自分のいいところを探す。 ★紹介したいことを選ぶ。 ★聞こえる声で話す。 ★視線を合わせる。 ★表情豊かに話す。
2	学活 45分	「イヤな言葉と うれしい言葉」 (エンカウンター)	○イヤな気持ちになる言葉と、うれしい気持ちになる言葉を、言ったり、言われたりする体験を通して、お互いの気持ちを味わう。 ▲自己理解を図る。 ★相手に近づく。 ★相手をきちんと見る。 ★聞こえるような声で言う。 ★笑顔で言う。
3	学活 45分	仲間の入り方 「いーれて」 (ソーシャルスキル)	○一人一人の仲間に入るスキルを高める。受容的な人間関係を体験し、自分の意志を伝えやすくする。 ★相手に近づく。 ★相手をきちんと見る。 ★聞こえるような声で言う。 ★笑顔で言う。
4	朝の会 ショート	「聖徳太子ゲーム」 (エンカウンター)	○一人ではできないことでも、グループで協力すればできることを体験しながら、互いの信頼感を高める。 ▲信頼体験を図る。 ★相手の話を最後まで聞く。 ★相手に聞こえる声で話す。
5	朝の会 ショート	「なんでもバスケット」 (エンカウンター)	○マナーやルールを守りながら、学級のみんなで、一つのゲームを楽しみ、仲間とあたたかな関係をつくる。 ▲他者理解を図る。 ★相手の話を聞く。 ★相手の聞こえるような声で話す。
6	帰りの会 ショート (5日間)	「3つの発見」 (エンカウンター)	○1日を3つの事柄について振り返ることで自己肯定感を高める。お互いの良さを認め合うことで他者理解を促進する。 ▲他者理解を図る。 ★相手の話を聞く。 ★相手の聞こえるような声で話す。
7	朝の会 ショート	「進化ジャンケン」 (エンカウンター)	○自他が成長することに気づく。 ▲自己理解を図る。 ★相手の話を聞く。 ★相手の聞こえるような声で話す。
8	学活 45分	「あたたかい 言葉シャワー」 (ソーシャルスキル)	○温かい言葉かけは人間関係も温かくする。温かい言葉かけとは、何かを知り、温かい言葉かけをかけ合う体験を通してそのよさを味わう。 ▲自己理解を図る。 ★相手をきちんと見る。 ★相手の名前を言う。 ★聞こえる声で言う。 ★笑顔で言う。
9	学活 45分 本時	「いいとこさがし」 (エンカウンター)	○友達のよいところを探したり、友達が見つけた自分のよさを知り、受け入れられることの喜びを味わう。 ▲自己理解を図る。 ★相手をきちんと見る。 ★相手の名前を言う。 ★聞こえる声で言う。 ★笑顔で言う。
10	学活 45分	「サイコロトーク」 (エンカウンター)	○学級の友達一人一人のことを知ろうとする気持ちや、積極的に自己開示しようとする気持ちを持ち、相互の信頼関係を深める。 ▲自己理解を図る。 ★相手の話を最後まで聞く。 ★みんなと同じぐらい話す。

3 本時の指導計画（5/6）

(1) 題材名 「いいとこさがし」

(2) 本時のねらい

○友達のよいところを見つけることができる。

○友達が見つけた自分のよさを知り、受け入れられることの喜びを味わうことができる。

(3) 本時の授業仮説

お互いのよさを認め合う体験を通し、他者を肯定的に受け入れたり、受け入れられることの喜びを味わうことができるであろう。

(4) 準備するもの

児童用：いいとこさがしカード、いいとこさがしシート、振り返りカード

教師用：うれしい気持ちになる言葉（感情語）、心を伝える話し方、カードの書き方

(5) 展開

	学 習 活 動	◇ 教師の指示・発問 ★ 児童の反応・行動	※評価 ●留意点
導 入 10 分	<p>〈ウォーミングアップ〉</p> <p>1 前時の授業を振り返る。</p> <p>〈インストラクション〉</p> <p>2 内容の説明をする。</p>	<p>◇近くの人と二人組を作って下さい。</p> <p>◇近くの人と三人組を作って下さい。</p> <p>◇離れて（2～3回程度繰り返す）</p> <p>◇それでは女子2人組と男子2人組を作って下さい。</p> <p>◇男子グループは女子グループとお見合いをして下さい。</p> <p>◇「あたたかい言葉シャワー」で感情語を入れることで、よりうれしい気持ちになりましたね。</p> <p>感情語には、ほめる言葉、感謝する言葉、励ます言葉、心配する言葉がある。</p> <p>◇一昨日は、グループのメンバーにあたたかい言葉かけをしましたね。またこれまでに「3つの発見」をしてお友達のいいところをたくさん見つけてきました。今日は今できたばかりのメンバーのいいところを探しましょう。では、いいところ探しをする時、どのようなことに気を付けたいと思いますか。</p> <p>★あたたかくなる言葉を使えばいい。★感情語を使えばいい。</p> <p>★「心を伝える話し方」をすればいい。</p>	<p>●色々な人と、ペアーを作る。</p> <p>●7グループを作る。</p> <p>●席は前向き。椅子のみ。</p> <p>●感情語の確認。</p> <p>●いいところ探しのポイントを確認。</p>
展 開 25 分	<p>〈エクササイズ〉</p> <p>4 カード記入。</p> <p>5 話し方の確認。</p> <p>6 各グループで発表。</p>	<p>◇今日の学習は、お友達の「いいところ探し」です。10分間でグループのお友達のよいところを探しカードに書きましょう。書き終えた人は、静かにリハーサルの練習をして下さい。</p> <p>◇「心を伝える話し方」を確認する。</p> <p>① 相手をきちんと見る。② 相手の名前を言う。 ③ 聞こえる声で言う。④ 笑顔で言う。</p> <p>◇先生も礼子先生のいいところを見つけました。紹介するね。</p> <p>・「礼子先生は、ピアノを弾くのが上手だね。私も礼子先生のように上手に弾けるようになりたいです。」</p> <p>・「礼子先生は、私が話をする時、いつも最後まで話を聞いてくれるので、とてもうれしいです。」</p> <p>◇2分間リハーサルの練習をして下さい。</p> <p>◇各グループで発表をしましょう。</p> <p>◇グループの発表が終わったら手を挙げて下さい。そしてカードなしであたたかい言葉かけをして下さい。</p> <p>★「〇〇さんは、絵を描くのが上手だね。ぼくも〇〇さんようになりたいです。」</p>	<p>●円座</p> <p>●机間指導</p> <p>●必要に応じ介入する。</p> <p>※友達のよいところを見つけることができたか。</p> <p>●例をあげて、みんなで確認する。</p> <p>※友達からカードを受け取ることで喜びを味わうことができたか。</p>
ま と め 10 分	<p>〈シェアリング〉</p> <p>7 まとめ</p>	<p>◇みなさん、今日はお友達のよいところをたくさん探すことができましたね。また、カードをもらいどんな気持ちになりましたか。活動をしての感想を振り返りカードに書きましょう。</p> <p>◇友達の「いいところ探し」をして、感じたことを発表してください。</p> <p>★友達が私のいいところを見つけてくれたのでとてもうれしい。</p> <p>★友達が喜んでくれたのでうれしかった。</p> <p>◇友達に自分のいいところを見つけてもらうことはうれしいことです。また、友達のいいところを見つけてあげたことで、お友達が喜んでいて自分もうれしくなるね。これから皆さんもクラス以外の人や家族の人のいいところをたくさん見つけて、あたたかい言葉かけをしてほしいと思います。</p>	<p>●自己評価の説明。</p> <p>●定着化を図る。</p>

4 授業の分析と考察

〈本時の授業仮説〉

お互いのよさを認め合う体験を通し、他者を肯定的に受け入れたり、受け入れられることの喜びを味わうことができるであろう。

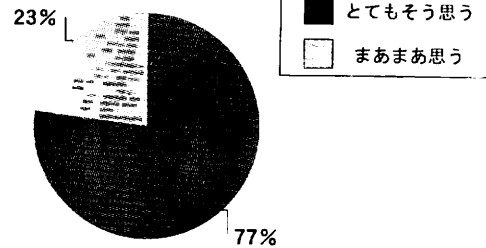
(1) 他者を肯定的に受け入れられたか。(他者理解)

図2は、他者理解に関する自己評価と感想である。

『友達のいいところを見つけることができましたか。』の問いに「とてもそう思う。」と答えた児童が77%、「まあまあ思う。」と答えた児童が23%であった。また、児童の感想から、「友達には、いいところがいっぱいあるんだな。」「友達の顔を見ているといいところを見つけることができた。」等から、いいところを見つけて伝え合う活動を通して、クラス全員が友達のよさに気づくことができ、他者を肯定的に受け入れることができた。

〈感想〉

- ・友達のいいところを探している時、私はワクワクした。楽しい気持ちで書いた。
- ・いいところを探してみると、友達にはいいところがいっぱいあるんだなと思いました。
- ・最初は、友達のいいところを探せなかった。でも休み時間や昨日のことを思い出してみるとつけることができました。
- ・最初は、「友達のいいところはないな」と心で言っていたけど、友達の顔を見てちゃんと考えるといっぱいあった。



友だちのいいところを見つけることができましたか。

図2 他者理解について

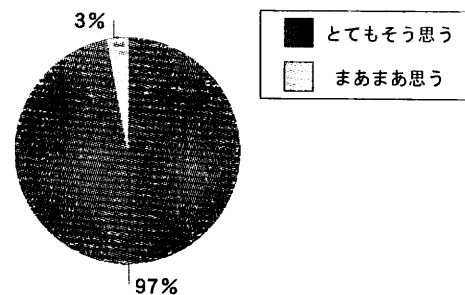
(2) 受け入れられることの喜びを味わうことができたか。(自己理解)

図3は、自己理解に関する自己評価と感想である。

『友達からカードを受け取った時うれしかったですか。』の問いに「とてもそう思う。」と答えた児童が97%、「まあまあ思う。」と答えた児童が3%であった。そのことから、クラス全員が級友からカードを受け取ることで、喜びを味わうことができた。また、児童の感想から、「自分でも気づかない、いいところを言ってもらいうれしかった。」「私にもいいところがあるんだ。」等から、自己受容感も得ることができた。

〈感想〉

- ・みんなが私のいいところをさがしてくれたのでうれしかった。
- ・カードには、「うまいね。」「上手だね。」と書かれていたので、うれしかった。
- ・カードをもらいうれしくなり「ありがとう。」と言った。
- ・自分でも気づかない、いいところを言ってもらいうれしかった。
- ・みんな私のことをよく見ているなと思った。
- ・友達からカードをもらった時はとてもうれしかったです。それに自分にもいいところがあるんだなと思った。



友達からカードを受け取った時うれしかったですか。

図3 自己理解について



友達のよさを見つけている場面



友達へカードを手渡す場面

IV 研究全体の考察

〈研究仮説〉

構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを取り入れることで、「リレーション」と「ルール」が確立され、単学級におけるよりよい学級集団の育成が図れるであろう。

『単学級におけるよりよい学級集団の育成』のために、「リレーションの確立」「ルールの確立」「個々の居場所が学級にあったか」について、『楽しい学校生活を送るためのアンケート (Q-Uアンケート)』の結果、友達ふやそうアンケートを基に検証する。

1 児童間の温かな交流が図れたか (リレーションの確立)

図4は事前・事後に実施したQ-Uアンケート、学校生活意欲に関する結果である。事前よりも友達関係は、10.0から10.8へ(全国平均9.7)、学級の雰囲気は、11.1から11.7へ(全国平均10.2)と高まった。児童は、友達関係、学級の雰囲気について望ましい感情をもっている。

また、表3は「友達ふやそうアンケート」の被選択数と被排斥数の平均値を求め、事前と事後の変化についてt検定を行った結果である。

まず、「仲の良い友達はだれですか。」の問いをもとに、被選択数を求めた。事前の平均値3.96に対し事後の平均値は、5.41となり有意な増加が認められた。次に、「よくけんかをする人はだれですか。」の問いをもとに、被排斥数を求めた。事前の平均値1.00に対し、事後の平均値は0.41となり有意な減少が認められた。

以上のことから自己理解・他者理解・信頼体験をねらいとする、構成的グループエンカウンターを取り入れたことで、リレーションが高まり、交友関係に広がりが見られ、児童間の温かな交流が盛んになったといえる。

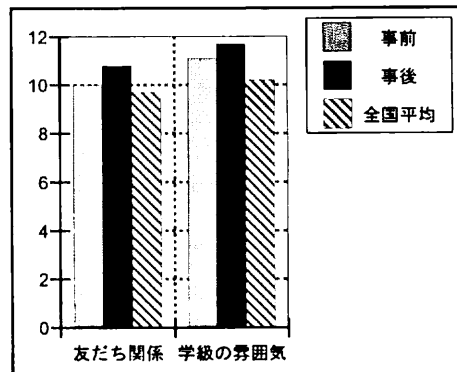


図4 Q-Uアンケートの結果

表3 友達ふやそうアンケートより (p<.01**, p<.05*)

項目	事前平均値	事後平均値	t値	p値
「仲の良い友達はだれですか。」(被選択数)	3.96	5.41	-3.31	<.01 **
「よくけんかをする人はだれですか。」(被排斥数)	1.00	.41	2.21	<.05 *

2 対人関係に関するルールが身に付いたか (ルールの確立)

表4は、「友達ふやそうアンケート」の5項目に関して、事前・事後の平均値の差を求めt検定を行った結果である。表4のすべての項目で有意差が認められた。とりわけ効果が大きかったのは、『自分から「入れてよ」と言い、グループへ入ることができる。』(P<.01)、また『「すごいね」「上手だね」「ありがとう」の感情語が言える。』(P<.01)、『「ごめんなさい」が言える。』(P<.01)であった。

ソーシャルスキルトレーニングで、「仲間の入り方」や「あたたかい言葉かけ」、「気持ちをわかって働きかける」を実践したことで、友達の様子に感情語をつけて話をしたり、自分から進んで友だちの輪の中に入っていけるようになってきた。以上のことから、友情形成スキルを習得したことで、自分から積極的に集団へ働きかけるようになり、対人関係を広げるために必要なルールが身についてきたといえる。

表4 友達ふやそうアンケートより (4件法) (p<.01**, p<.05*)

項目	事前平均	事後平均	t値	有意確率(P)
①1人である人を見ると「一緒に遊ぼうよ」と言うことができる。	2.93	3.26	-2.79	<.05 *
②自分から「入れてよ」と言い、グループへ入ることができる。	3.37	3.81	-2.88	<.01 **
③元気がない人を見かけたら「どうしたの」と言うことができる。	3.19	3.59	-2.10	<.05 *
④「すごいね」「上手だね」「ありがとう」が言える。	3.26	3.70	-3.60	<.01 **
⑤「ごめんなさい」が言える。	3.11	3.77	-5.09	<.01 **

3 「個々の居場所が学級にある」について

図5は、Q-U アンケートによる学校生活満足度の変容である。学校生活満足度尺度で、事前は学校生活満足群に20人(67%)だったが、事後は25人(83%)になり、学校生活不満足群、非承認群、侵害行為認知群の児童は減少した。また、学校生活満足群に属する児童が事前よりも事後は、より満足度の高い位置へ移動している。

このことから、児童がリレーションと対人関係に関するルールを身に付けたことで、「個々の居場所が学級にある」理想的な学級の状態となったといえる。(図1参照)

しかし、まだ学校生活に満足していない児童が5人見られ、今後個別的な支援が必要である。

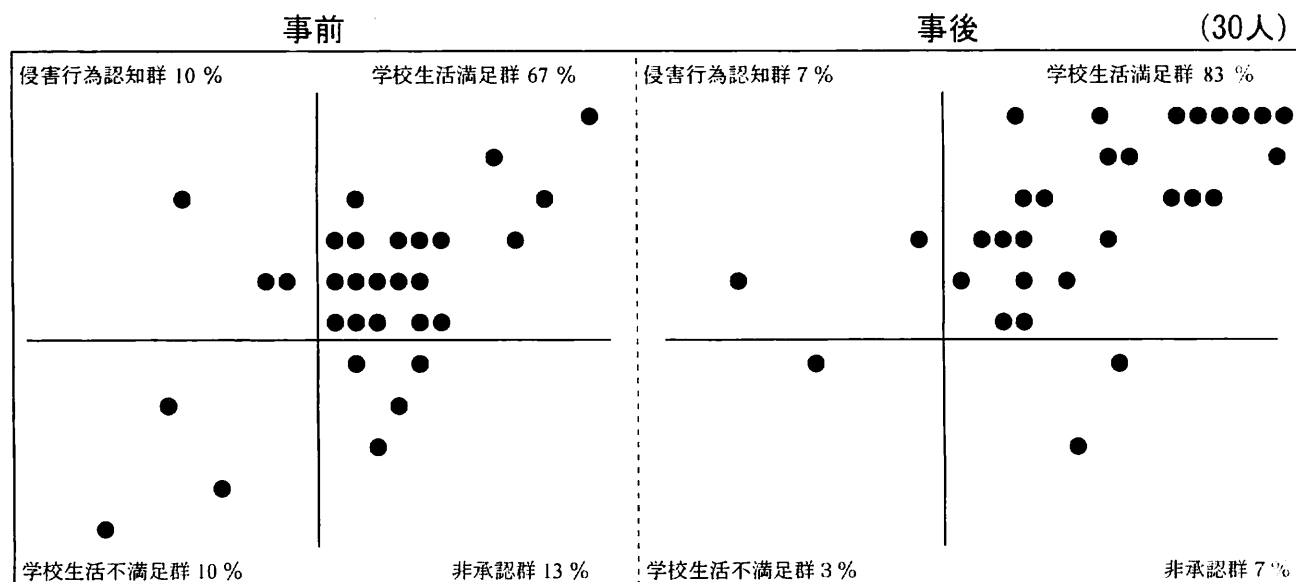


図5 授業前・授業後の学校生活満足度の変容

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 「リレーションの確立」と「ルールの確立」を図るために、意図的・計画的に構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを実践することで、交友関係に広がりが見られ、単学級におけるよりよい学級集団の育成が図れた。
- (2) 朝の会や帰りの会でショートエクササイズを取り入れることで、短時間で児童間の交流が図れた。
- (3) Q-U アンケートより、学級の実態を把握し児童理解を深めることができた。
- (4) 学級の実態に即したエクササイズやソーシャルスキルの題材の選択方法がわかった。

2 今後の課題

- (1) 個別的な支援が必要な児童への援助と工夫
- (2) 継続的な取り組み
- (3) 学校全体での取り組み

〈主な参考文献〉

- | | | | |
|--------|--------------------------|------|-------|
| 國分康孝監修 | 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』 | 図書文化 | 1999年 |
| 國分康孝監修 | 『エンカウンターで学級が変わる』 | 図書文化 | 2004年 |
| 河村茂雄編集 | 『Q-U による学級経営スーパーバイズ・ガイド』 | 図書文化 | 2004年 |
| 國分康孝編集 | 『育てるカウンセリングが学級を変える』 | 図書文化 | 1998年 |